

## 組織的な大学院教育改革推進プログラム事後評価結果

機関名	熊本大学	整理番号	H010
主たる研究科・専攻等名	自然科学研究科		
教育プログラム名	イノベーション創出のための大学院教養教育		
取組実施代表者	原岡喜重		

### 組織的な大学院教育改革推進プログラム委員会における評価

<p><b>【総合評価】</b></p> <p> <input type="checkbox"/> 目的は十分に達成された  <input type="checkbox"/> 目的はほぼ達成された  <input checked="" type="checkbox"/> 目的はある程度達成された  <input type="checkbox"/> 目的はあまり達成されていない         </p>
<p>〔実施（達成）状況に関するコメント〕</p> <p>イノベーション創出のために理工系大学院生に対する教養教育を実施するという意欲的なプログラムの目的に沿い、既存の専門教育との両立という面からも容易でない事業が着手され、3つの特別教育プログラム「数理科学」「人間科学」「外国語リテラシー」と「学生主催特別講義」「自立支援」が計画どおり実施された。取組を通じて、大学院教育の質の向上に検討が欠かかせない今後の大学院教養教育の課題のいくつかを明らかにした点は評価できる。なお、明確に区分できる形で上述科目群が計画・提供されたことは適切であったものの、同時にそれらが独立別個に行われ体系的な推進が実現されなかった点は惜しまれる。</p> <p>定量的指標が明らかになりにくいのが大学院教養教育の難しさの一つであることを踏まえ今後の改善策が検討されてきたが、受講者数があまり多くない点等、時間割や事業実施に対する研究科の共通理解にも起因する具体的課題の解決が待たれる。しかしながら、大学及び研究科による支援期間終了後の自主的な展開については経費的措置も示されており、今後の課題検討と取組の充実が期待される。</p>
<p>（優れた点）</p> <p>大学院教養教育の重要性に着目して、いくつかの具体的取組を着実にを行い、更にそれを通して現れてきた諸課題を的確に捉え、検討事項として明らかにしたことは高く評価できる。</p> <p>イノベーション創出との関連において大学院教養教育に挑戦した点と、専門教育との整合性の困難のいくつかを今後の課題として明確に示したことも優れた点である。</p> <p>（改善を要する点）</p> <p>本プログラムの意義が、学生および教員の間で明確に共有されるための取組がさらに必要であると思われる。また、本プログラムがより体系的に実施される形態を構築するために、本プログラムの目的と、個々の科目の役割の関係を示すなどの配慮が望まれる。</p> <p>上項に深く関連することであるが、イノベーション創出と大学院教養教育の関連について、具体的な学修項目の吟味・選択とその成果の評価方法の確立までを含め明確にできるよう検討することが望まれる。また、専門教育との関わりについて、研究科全体での理解の共有を進めていく方法や、推進方法についての更なる検討が望まれる。</p> <p>情報発信についても概ね積極的ではあるが、その意義が伝わるよう、学内外を含め広範囲への具体的な発信が望まれる。</p>